

# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 土浦市立土浦第五中学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ・Ⅴ
2 実施対象者 (学年・人数)	第1学年 142人 第2学年 158人 第3学年 148人 総計 448人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 総合的な学習の時間 ) ② 行事名 ( パラアスリートによる講演会 ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	○東京パラリンピック出場に向けて努力するパラアスリートの講話を聴くことにより、自分自身も最後まで粘り強くやり遂げようとする意欲を高める。 ○パラアスリートとの交流を通して、オリンピック・パラリンピックの精神やスポーツの意義や価値、多様性と共生社会の大切さ等を学ぶとともに、他者への思いやりの心を育てる。
5 取組内容	(1) 事前学習 オリンピック・パラリンピック教材を活用した道徳の授業実践を行う。 ① 授業実践Ⅰ「真の国際人 ―嘉納治五郎―」 ② 授業実践Ⅱ「多様性と共生社会 ―インクルーシブな社会を考える―」 (2) パラアスリート（車椅子テニスプレーヤーである鈴木康平選手）による講演会 ① 生徒とのエキシビジョンマッチ ② 講演 ③ 各学級における振り返り ④ 鈴木康平選手へのお礼の手紙の記入 (3) 事後学習 道徳の授業実践オリンピック・パラリンピック教材を活用した道徳の授業の後、国枝選手に送る応援メッセージを記入す

	<p>る。</p> <p>① 授業実践Ⅲ「世界最強のテニスプレーヤー 一國枝慎吾一」</p> <p>② 國枝慎吾選手に送る応援メッセージの記入</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>○生徒たちは、パラアスリートとの交流を通して、オリンピック・パラリンピックの精神やスポーツを通じた共生社会の構築、最後まで粘り強くやり抜くことの大切さ等、数多くのことについて学ぶことができた。</p> <p>○パラアスリート（車椅子テニスプレーヤーである鈴木康平選手）による講演会と、道徳の授業を関連付けながら啓発してきたことによって、生徒たちは、共生社会を実現するための自己の役割や責任、他者への思いやりなどの重要性について理解を深めることができた。</p>
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>○パラアスリートとのエキシビジョンマッチを取り入れたことは、生徒の興味・関心を高めただけでなく、スポーツを通じたよりよい共生社会の在り方について問題提起することにつながった。</p> <p>○オリンピック・パラリンピック教材を活用した道徳の授業実践を事前・事後に位置付けたことで、自分自身をより多くの視点で振り返ることができた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○オリンピック・パラリンピック教育を、各教科間等横断的なつながりの中でどのように扱っていくことが効果的かを十分に検討する必要がある。</p> <p>○スポーツを通じたよりよい共生社会の在り方については、学校だけでなく、地域や関係機関等との連携を検討していく必要がある。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>○今回のオリンピック・パラリンピック推進事業での実践を基によりよい共生社会の在り方等についてさらに探求心をもって活動できるよう、指導計画等への明確な位置付けを図ってきたい。</p>